

平成26年度 東京都立白鷗高等学校及び附属中学校経営計画

校長 若井 文隆

I 目指す学校

『世界へ羽ばたくリーダーたちの学び舎』

『伝統から未来へ』

本校創立以来の高い知性と豊かな教養を身に付ける教育の成果を継承し発展させるとともに、先見性をもって時代や社会の変化に対応した学校経営を推進する。特に都立初の併設型中高一貫教育校としての成功に向け以下のような学校をつくる。

- (1) 生徒の個性・能力を生かし伸ばす教育を推進し、**自己実現を図る学校**。特に高校においては、進学指導に重点を置き、教育内容の一層の充実を図る。
- (2) 創造性豊かで開拓精神に富んだ人格の涵養を目指し、**未来社会のリーダーとなる人材**を育成する学校。
- (3) 国際理解教育の視点から、日本の伝統文化を尊重するとともに、異なる文化への理解を深め、**国際社会に貢献する有為な人材**を育成する学校。
- (4) **地域に根ざし、開かれた学校**をつくるため、学校運営連絡協議会を充実させるとともに、学校教育活動の公開、地域との連携、交流を積極的に行う学校。
- (5) 併設型中高一貫教育校として都立白鷗高等学校の歴史と伝統を生かしつつ、附属中学校から**6年間を見通した意図的、計画的、系統的な教育を推進**して生徒の自己実現を図る学校。

II 中期的な目標と方策

- (1) 附属中学校が中高一貫教育の理念を生かし、かつ併設型の特性を効果的に活用するとともに、高等学校での教育活動をさらに充実させて双方が有機的につながり、生徒が充実した学校生活を送れるような安定した学校運営ができる学校組織を構築する。
- (2) 進学校として、生徒の適性に応じたきめ細かい学習指導を行い、確実に進路希望を実現させる。同時に3年間及び6年間を通して生徒の在り方生き方等を考えさせるキャリア教育の充実を図る。特に中高一貫教育校として生徒の進路実現に向けた全校的な取り組みを実施する。
- (3) 本校の地域特性を生かし、授業や行事などを通して、日本の伝統や文化について体験的に学ばせ、国際理解、異文化理解のためのしっかりとした基本づくりをする。
- (4) 地域の教育資源の活用、地域行事への生徒の積極的参加、学校運営連絡協議会等相互意見交換の機会の活用、施設開放事業などを通して地域に信頼され支援される学校づくりに努める。
- (5) 施設の老朽化が目立つようになったため、計画的に修理、改修を行い生徒の安全を確保するとともに施設利用についての効率化を図り、さらに有効活用できる工夫をする。

III 今年度の取り組み目標

教育活動の目標と方策

これまでの伝統を踏まえながら、学校全体が一体となった教育活動を実践し、生徒の高い志、進路目標を達成させるため、以下の観点から目指す学校の実現に努力する。

①学校運営

中高一体化した組織的運営を目指す。そのため、情報の共有化と各分掌・学年が明確な目標を掲げ、検証を実施し、次年度に継承していく体制を確立する。また、S P P及び理数教育推進事業を通して、理数教育の充実を図る。

②学習指導

生徒個々の学力を最大限に伸ばすことを目指す。そのため、規律ある授業、落ち着いた学習環境を整備する。学習習慣の定着を図り、その状況について定期的な検証を実施するとともに、校内研修の充実を図り、質の高い授業を維持する。センター試験での高得点、国公私立のいわゆる難関校への合格が実現できる学力を身に付けさせる指導を行う。

③進路指導

生徒が確固たる職業観、勤労観をもち、最適な進路を実現させるための6年間を通じたキャリア教育を策定し、充実した進路指導を目指す。総合的な学習の時間・教科奉仕等を通じ、生徒が在り方・生き方を考え、自己実現しようとする意欲・態度の育成を図る。中学においては職業講話、職業体験などを充実させ、早期の職業観、勤労観の育成を図る。中学・高校ともに卒業生、外部講師を積極的に活用し、講演会等により生徒の学習意欲、進路意識の喚起を図る。

④生活指導

安全で規律ある学校生活を生徒が主体的に保持しようとする意識、態度を身につけることを目指す。全教職員で共通した生活指導への認識をもち、組織的できめの細かい指導ができるよう指導方法を工夫する。中高一貫教育校としての特徴を活かした特別活動を通してリーダー育成の視点を持ち、豊かな人間性を育む生活指導を展開する。これらの取り組みを通して、生徒に成就感を持たせ、本校への帰属意識を高める。

⑤募集広報

中学入学生と融合し共に切磋琢磨できる高校入学生、6年間の中高一貫教育を理解し学習意欲のある中学入学生を確保するため組織的な募集・広報活動を実施する。

⑥健康推進

心と体の健康づくりを組織的、計画的に推進することを目指す。生徒の実態を調査し、特別支援教育の推進および食育の充実に努める。

⑦情報活用

情報処理能力を高めるとともに、情報を適切に活用する能力の育成を目指し、学習指導へのICT機器の積極的活用を図る。

⑧国際理解教育

日本の伝統文化の理解を通して世界の文化を知り、海外修学旅行や短期語学留学、さらには学校交流を通して広く海外に目を向け国際社会に貢献できる社会性を育成することを目指す。

⑨地域連携

開かれた学校づくりを推進し地域、保護者から信頼される学校づくりを目指す。

⑩経営企画室

教員と経営企画室との連携強化を図るとともに、学校運営への経営参画の充実を図る。

IV 今年度の重点的取組と数値目標

※本年度は特に、教科指導力の向上にむけた各種取組みと検証を最重点課題として行う。

項目		内 容	取組 達成時期
①学校 運営	ア	中高一貫教育校の検証結果を踏まえた教育活動の継承と、新たな取り組みの策定。	3月
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証の実施。	3月
	ウ	各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制の構築。	3月
	エ	募集・広報活動の充実を図るとともに、円滑な入学選抜等の実施に向けた経営企画室との連携強化。	2月
	オ	全教諭が年間3回以上の授業見学を実施し、教科指導力の向上を図る。	3月
	カ	中高それぞれでSPP事業の実施及び理数教育チャレンジ団体としての取り組みの充実	3月

②学習指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	9月 1月
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進度の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	2月
	ウ	成績推奨ファイルによる生徒指導資料等への活用を図る。	3月
	エ	チューターの有効活用と自習室の充実を図る。	3月
	オ	学習習慣の定着化を図るために自宅学習時間の確保を図る。	2月
	カ	英語、漢字などの各種検定に対する年間実施計画の策定。	3月
	キ	卒業生を含む学年検討会・センター検討会等を4回以上実施し、生徒一人一人に応じた指導内容の共有化を図る。	3月
③進路指導	ア	5教科による勉強合宿の実施により、学力の伸長を図る。	8月
	イ	自己の学力把握のための実力テストと模擬試験の計画的な実施。	3月
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者延べ8000人以上。	1月
	エ	国公立大学・難関私大への実質進学者数80名以上。	3月
	オ	難関国立大学への合格者10名以上。	3月
④生活指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等の基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	3月
	イ	中高一貫校としての行事の検証と工夫・改善を図る。	2月
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	3月
	エ	部活動の活性化を図り、中学・高校ともに、都大会等以上の大会出場に3団体以上を目指す。	3月
	オ	年間皆勤者数、学年平均50名以上。	3月
⑤募集広報	ア	学習塾等への訪問20以上。	1月
	イ	中学校説明会参加者6000名以上。	1月
	ウ	中学校入試倍率7.0倍以上。	3月
	エ	高校説明会参加者800名以上。	1月
	オ	高校入試倍率1.7倍以上。	3月
	カ	ホームページ委員会の充実を図り、内容のさらなる充実と、週に一度の更新ペースを維持する。	3月
⑥健康推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会や生徒理解研修会の実施。	2月
	イ	SCによる学年全体面接及び個別指導の充実。	3月
	ウ	健康推進のための講演会実施。	3月
⑦情報活用	ア	ICT機器を使った授業の推進。	3月
	イ	ICT機器を活用した教職員の情報共有化の促進。	3月
⑧国際理解教育	ア	海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実。	2月
	イ	国際社会で活躍する人材を育成するために留学の推進を図る。	3月
	ウ	姉妹校提携校との交流内容の充実。	1月
	エ	日本の伝統と文化理解教育の積極的発信。	3月
⑨地域連携	ア	中学の地域交流30カ所以上。高校の地域交流10カ所以上。	3月
	イ	大学進学に向けた保護者向け講演会の実施。	3月
⑩経営画室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画の策定	3月
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図り、経営参画の充実を図る。	3月

主な目標項目と数値目標

項目	目 標	対 象	24 年度実績	25 年度実績	目 標 数
②	自宅学習時間	中学生	1 時間 32 分	1 時間 39 分	2 時間以上
		高校生	2 時間 18 分	2 時間 14 分	2. 5 時間以上
③	進路決定	国公立大学及び 私立難関校進学者数	進学者 63 名 合格者 104 名	進学者 66 名 合格者 122 名	80 名以上
		難関国公立大学合格者	8 名	9 名	10 名以上
③	夏季講習参加者	中学生	3655 名	延べ 3217 名	延べ 1000 名
		高校生	9636 名	延べ 7030 名	延べ 8000 名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	学年平均 40 名	平均 60 名 (1～5 年)	50 名以上
⑤	説明会参加者	中学校	9857 名	7617 名	6000 名以上
		高校	1070 名	984 名	800 名
⑤	一般入選倍率	中学校	8.05 倍	7.68 倍	7.0 倍
		高校	1.69 倍	1.18 倍	1.7 倍
⑨	地域交流	中学校	61 カ所	54 カ所以上	30 カ所以上
		高校	12 カ所	13 カ所以上	10 カ所以上